

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300430		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	くつろぎ保養館仙台東		
所在地	宮城県仙台市若林区長喜城字宮浦27-5		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosvoCd=0475300430-00&PrefCd=04&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・温かく、明るい雰囲気の中で、ご自分のペースで生活を送れるように支援しています。
 ・その方の能力を見極め、出来る事、得意な事を発揮して頂き、役割を持って頂くことで自分らしい、生き活きとした生活が送れるように支援しています。
 ・利用者の方にとってはもちろん、ご家族の方々にとっても居心地が良いような環境作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台東部方面、市街地から数キロの田園風景が広がる中にぽっかりと浮かぶ森のような場所がある。それは若林区の「長喜城いぐね」といわれ歴史のある場所である。ホームは長喜城神社のすぐ裏にある和風建ての平屋である。敷地内には法人の老健施設が併設し協力体制ができています。町内会に加入し地域の回覧などで情報を受・発信し夏祭りなどにも参加している。毎月避難訓練をすることで利用者が体で覚え、「いざ!」となったらずぐ避難ができる体制になっている。利用料を直接施設支払にしていることで、毎月家族とのコミュニケーションがとれる利点がある。利用者の思いに寄り添った支援を実践に努めていることが、家族アンケートから読み取ることができる。管理者は、職員の研修を積極的に行い、技術向上と資格取得などに前向きである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 くつろぎ保養館仙台東）「ユニット名 Aユニット」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型介護サービスとして、【住み慣れた地域で自分らしく生活を送り、地域の中の一員として地域の方々と一緒に歩んでいます。】という理念を掲げ、地域の方々と関係性を重視している。	事業所の理念は「住み慣れた地域で自分らしく生活を送り、地域の中の一員として地域の方々と一緒に歩んでいます」である。毎月のユニット会議で確認しケアに活かし、地域住民との交流を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として、地域のイベントに参加したり、幼稚園の慰問、回覧板を利用者様と一緒に届けたりしている。	町内会に加入し、回覧などで情報を共有し、地域行事の夏祭りなどに参加している。傾聴ボランティアが月2回来所して利用者とお話をしたり歌を歌っている。地域の方から野菜を戴き献立の一品になることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の介護研修に参加したり、地域の方々の認知症介護・相談を随時行っている。また、中学校の総合学習の受入れを行ない、認知症や支援について伝える機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月に2回運営推進会議を行い、議題に沿って会議を進めている。また、会議で提案されたり、助言があった事については、会議録や口頭でご家族や地域の方々に説明を行い、サービスが向上出来る様に務めている。	新・旧町内会長、地域包括職員、元民生委員、家族、管理者で2ヶ月に1回開催し議事録を家族に配布している。地域包括が主催する「認知症グループホームの理解推進の為にセミナー」に参加、外部評価の報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や困ってる時等は市役所の介護保険課に相談したりしている。また、生活保護受給者の方は、保護課の担当者と相談をしたりして協力関係が出来ている。	利用者の事で必要に応じ介護保険課に、生活保護受給の利用者について保護課に相談するなど連携が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会を開催し、職員が勉強する機会を設けている。	同法人の老健施設の職員と学習委員会と一緒に研修を企画している。外部研修にも参加し、不参加の職員に伝達研修をしている。外出傾向を把握しゆっくり話し、思いを受け止め、納得する対応と細やかに寄り添うケアの実践に努めている。施錠は20時から翌朝7時である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を開催している。レポートを提出する事で、個々の意識付けになるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に、自分で金銭管理が出来ず、まもりーぶを使用している方がいる。1人1人に合った支援事業や制度を活用出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の契約の時は、1つ1つ確認を行い分かりやすく、噛み砕いて説明をしている。また、今後の方向性や重度化した時の対応等についても話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回ユニット会議を開催し、職員の意見を聞く開会を設けている。それ、以外でも要望や相談を聞き取る様にしている。	毎月の利用料の支払い時に、利用者と家族から要望などを聞いている。利用者の思いや要望の把握に努めている。家族から介護度や自立支援などについて意見があった。	家族とゆっくり時間を取って、運営に関する意見要望を聞く機会を設けることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の人間関係が上手くいくように、意見を聞くように心掛けている。相談された事は、本人のストレスにならない様に早めに対策を取っている。	意見は管理者に提案し、対応している。リネン交換方法の提案が、改善につながった事例がある。	運営に関する提案能力を上げるために、職員の資格取得や専門職試験などへ支援をしてスキルアップを図ることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回人事考課を行い、意欲的に仕事が出来る様に働き掛けを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設で実施している研修に参加し、スキルアップが出来る様に務めている。また、外部研修などにも積極的に参加出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、事業者同士で相談・報告をする事により、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望やニーズをお聞きし、職員間で共有している。また、バックグラウンド(生活歴)等を活用し、ご本人が安心して生活を送れるように関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの要望や、ニーズをお聞きしながら、ご家族のご本人に対する思いを大切にし、その思いが共有できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとって、優先されるべき事について、職員間で話合っている。ご本人に寄り添ったケアを迅速に行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動を中心に、一緒に行う事で生活の場として暮らして頂いている。一緒に生活をする、一員としての関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来館しやすいような環境作りや、ご家族も一緒に参加する事が出来る行事を企画している。ご家族の協力を得ながら、一緒にご本人を支えていく関係作りを築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や、親しい方の事を話題にしたりしている。また、お手紙を書いたり、電話をしたりする事で今までの関係が途切れない様に支援している。	長喜城に生家がある方は長喜城神社に散歩に行っている。年賀状を家族に出したり、携帯電話のメールで家族と連絡している。お墓参り・法事・孫の成人式など家族や社会との関係継続に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で一緒に作業を行って頂く中で、出来る方が、困難な方に対して手伝って頂ける様な働き掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移ってしまった方の面会を行っている。また、何かあったら相談して頂ける様に、ご家族に働き掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴し、希望や訴えを把握している。ご自分で訴える事が困難な方に対しては、ご家族からも情報を頂いたり、日常生活の中での表情や様子で汲み取る様にしている。	知り合いの美容師によるカット・ヘアダイの希望を受け、出張美容院を実施している。意向や希望は、一对一のケアでゆっくり話を聞いている。表現が困難な方へは表情や態度、ケア記録などから汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックラウンド(生活歴)を活かし、ご本人やご家族からの情報を職員間で把握、共有する事によりサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を把握し、ご本人に合った生活リズムで生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に、職員間で情報を集め会議で話し合い、ケア内容を検討しながらケアプランを作成している。	職員間で情報を共有、検討してカンファレンス会議を開き、モニタリングを行い家族に説明をしている。長・短期目標をたて評価を行っている。計画時には老健施設の作業療法士の意見も参考に、QOLが向上するよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録、個人ノートを活用し職員間で把握・共有している。又、その内容をケアプラン作成時の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望に応じ、柔軟なサービスを受ける事が出来る様に支援している。また、介護保険以外のサービス(医療保険での訪問リハビリ)等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や市民センターたより、広報誌などから地域の情報を集め、地域のイベントなどに参加出来る様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望する医療機関への受診を行って頂いている。ご本人の日々の健康状態を把握し、ご家族と情報共有する事で、適切な医療を受けられている。	入所時に家族と話し合い、かかりつけ医の希望を聞いている。職員はバイタルチェックを行い、協力医は半年に一回定期健診に来ている。かかりつけ医受診は、家族付き添いが基本で、ホームでの健康状態の情報を提供し、受診報告を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は居らず、特変時には併設の老健施設の医師に助言を頂いたり、係りつけ医での対応となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時にはサマリー等で情報交換を行っている。入院中は定期的に面会し、ご家族と退院に向けて話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、グループホームでの生活が困難になってきた利用者様に対しては、施設で行える出来る限りの支援、急変時の対応について説明を行っている。	ホームの重度化した場合のあり方を入所時に家族に説明をしている。基本的に利用者が食事ができなくなったとき、医療機関と家族と相談をして対応を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で、救命救急の指導を受けている。急変時にはすぐに応急処置が実施出来る様、介護日誌に救命救急方法の資料を挟んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、避難訓練を実施し避難誘導を身につけている。毎回、反省会や見直しを行い、安全に避難が出来る様に取り組んでいる。	災害マニュアルを備え、毎月避難訓練を行っている。夜間想定訓練の時には消防署からのアドバイスがあった。訓練を毎月行うことで体が覚え、すぐに対応できるようになっている。備蓄は一覧表を見やすい所に張って管理している。消火器・スプリンクラー・火災報知器を設置し点検も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の人格を尊重し、1人1人にあった馴染みの言葉(方言等)を使用し、分かりやすい様に話掛けを行っている。	一人ひとりのプライバシーに配慮し、名前は本人の希望で呼んでいる。その人の尊厳を尊重し、前向きになれるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望を気兼ねなく話が出来るとような声掛けや対応を行っている。訴える事が困難な利用者様に対しては、ご本人の好みの事、興味ある事を把握し、ご自分で決めて頂くように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その日の気分や、今日やりたい事を決めて、ご自分のペースで生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スカーフをしたり、帽子をかぶったりしておしゃれをして頂いている。また、エレガンス療法も行い、喜んで頂いている。朝に着る洋服は、その日の気分に応じてご本人と一緒に選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に準備・調理・片付けを行っている。利用者様、1人1人に応じて得意な事を発揮する事が出来る様に声掛けを行っている。	利用者と話合って希望を取り入れ、法人の栄養士がメニューを決めている。準備・調理・片付けなど職員と一緒にいき、食事と一緒に楽しく食べている。業務日誌に日々の食事量を記入し、ケアに活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を把握し、バランスの良い食事を提供している。偏食のある方や、咀嚼力・嚥下状態を観察しながら調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。それぞれの状態に応じて見守り・介助を行っている。また、定期的に訪問歯科の受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを積極的に行い、リハビリパンツでの排泄を減らす事が出来る様に務めている。必要な利用者様には、尿意の確認を行い排泄チェック表を活動し排泄間隔の把握に努めている。	排泄記録を確認し自立支援に努めている。誘導時間を記入し、次の誘導に気を付けて支援している。夜間は2時間置きに様子を見ている。リハパンから布パンに変わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや、適度に体を動かす機会を設け、またバランスの良い食事を提供し便秘の予防対策を行っている。また、便秘症の方には、下剤ではなく漢方薬(センナ茶)を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は隔日に対応し、湯温の好みや入浴時間も希望に沿って実施している。入浴拒否があった場合にはさりげなく誘う話をしながら風呂場に誘導するように支援している	入浴は週に2~3回が基本であるが、希望すれば毎日でも入れる。湯温なども好みを聞いて支援している。同性介助の方もいる。入浴拒否の方は時間をおいて声掛けをしたり、職員を変えるなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、個々の睡眠時間、体力を把握し、状況に応じて休養を摂って頂くように支援している。なかなか寝付けない利用者様には、添い寝をしたり話を傾聴したりして、安心して休んで頂ける様に働き掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書をすぐに確認できる所に整えている。処方内容に変更があった場合は、連絡ノートを活用し、すぐに職員間で把握出来る様に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々が得意とする作業を楽しんで行って頂くよう支援すると共に、レクリエーション活動等を提供し気分転換して頂く機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設周辺や近くの神社までの散歩を行っている。月の行事では、ご家族も一緒に参加し外出する事が出来ていた。	担当者がその日その日に外出の予定を決めて行っている。通所事業所の車を借りて青葉城などに出掛けている。また近隣の公園や長喜城神社に散歩に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一定額をご家族様からお預かりし、管理している。外出先や、出張パン屋来館等、お金を支払う機会があった時は、職員が必要額を手渡し、ご自身でお支払いをして頂くようにしていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙や年賀用、暑中見舞いなどで近況をお知らせしたり、希望される利用者様にはいつでも電話がかけられるような対応をしていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温管理は事務所で統一して管理し、温度を調整している。共有スペースには季節感のある花や装飾を行い、視覚、聴覚に訴えかける空間作りを心がけている。	ユニット毎のリビングは、明るく、温かな雰囲気である。合唱できるよう壁には大きな紙に歌詞を書いて貼ってある。季節の飾り物(クリスマスの飾り付け)などで季節感が感じられるように工夫している。各ユニットの間にある中庭が癒しの空間になっている。温・湿度調整を行い快適な環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、座敷を利用し仲の良い利用者同士でゆっくり話合えるよう、座席の配置を工夫したりした。 文庫本等を置き、ゆっくりと読書を楽しむ事が出来る空間作りに努めた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	懐かしい思い出の物、大切な物、馴染みの物を持参して頂き、ご自宅での生活に近いスタイルで生活出来る様に工夫している。	居室は洋間と和室があり、洗面台・物入れが付いている。和室にベットの持ち込みも可能で本人の住みやすい環境になっている。箆笥、誕生会などの写真、家族の写真、ミニ運動会のメダルなどを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しない様に、生活の場に分かりやすく名前を付けたり、力が発揮できるような支援を行った。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475300430		
法人名	医療法人 杏林会		
事業所名	くつろぎ保養館仙台東		
所在地	宮城県仙台市若林区長喜城字宮浦27-5		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/04/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosvoCd=0475300430-00&PrefCd=04&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・明るい雰囲気の中で、毎日の生活が安心して送れるよう支援し、1人1人が自分の能力に応じた役割が発揮出来る様支援し、毎日を生き活きと過ごして頂ける様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台東部方面、市街地から数キロの田園風景が広がる中にぽっかりと浮かぶ森のような場所がある。それは若林区の「長喜城いぐね」といわれ歴史のある場所である。ホームは長喜城神社のすぐ裏にある和風建ての平屋である。敷地内には法人の老健施設が併設し協力体制ができています。町内会に加入し地域の回覧などで情報を受・発信し夏祭りなどにも参加している。毎月避難訓練をすることで利用者が体で覚え、「いざ!」となったらずぐ避難ができる体制になっている。利用料を直接施設支払にしていることで、毎月家族とのコミュニケーションがとれる利点がある。利用者の思いに寄り添った支援を実践に努めていることが、家族アンケートから読み取ることができる。管理者は、職員の研修を積極的に行い、技術向上と資格取得などに前向きである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 くつろぎ保養館仙台東 ）「ユニット名 Bユニット 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業の理念【住み慣れた地域で地域で自分らしく生活を送り、地域の中の一員として地域の方々と一緒に歩んでいきます】をユニット会議等で確認し合っている。	事業所の理念は「住み慣れた地域で自分らしく生活を送り、地域の中の一員として地域の方々と一緒に歩んでいきます」である。毎月のユニット会議で確認しケアに活かし、地域住民との交流を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様と、近所を散歩する時は挨拶をしている。また、回覧板を利用者様と一緒に届けたりする事で、地域の方々との交流を図る様にしている。	町内会に加入し、回覧などで情報を共有し、地域行事の夏祭りなどに参加している。傾聴ボランティアが月2回来所して利用者とお話をしたり歌を歌っている。地域の方から野菜を戴き献立の一品になることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴ボランティアの受け入れを行っており、利用者様とお話をする機会を設けて、認知症や支援方法について伝える機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設行事の取り組み、報告等を行い、参加者からの助言やアドバイスを頂いている。	新・旧町内会長、地域包括職員、元民生委員、家族、管理者で2ヶ月に1回開催し議事録を家族に配布している。地域包括が主催する「認知症グループホームの理解推進の為にセミナー」に参加、外部評価の報告も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事や困ってる時等は、市役所の介護保険課に相談したりしている。また、生活保護受給者の方は、保護課の担当者と相談をし、協力関係が出来ている。	利用者の事で必要に応じ介護保険課に、生活保護受給の利用者について保護課に相談するなど連携が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の為、落ち着かない時は、外に出て一緒に散歩をしていた。トイレ介助で拒否があった場合には、職員を変えて対応したり、時間を空け、落ち着いてから誘導したりしている。	同法人の老健施設の職員と学習委員会と一緒に研修を企画している。外部研修にも参加し、不参加の職員に伝達研修をしている。外出傾向を把握しゆっくり話をし、思いを受け止め、納得する対応と細やかに寄り添うケアの実践に努めている。施錠は20時から翌朝7時である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や外部研修に出席し、レポートの作成を行う事で、知識を身に付け実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中にまもりーぶを利用している方がいる。1人1人にあった制度が活用出来る様に、研修会等にも参加し、知識を身に付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際は、1つ1つ確認しながら十分に説明を行い、理解して頂くようにしている。十分に説明を行い、納得の上同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来館時に家族から要望や意見等を聞く機会を設け、それらを管理者から報告を受けその都度、それに応じた運営をしている。	毎月の利用料の支払い時に、利用者と家族から要望などを聞いている。利用者の思いや要望の把握に努めている。家族から介護度や自立支援などについて意見があった。	家族とゆっくり時間を取って、運営に関する意見要望を聞く機会を設けることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会議を開催し、職員の意見などを聞いている。また、何か要望や相談がある時はその都度、対応している。	意見は管理者に提案し、対応している。リネン交換方法の提案が、改善につながった事例がある。	運営に関する提案能力を上げるために、職員の資格取得や専門職試験などへ支援をしてスキルアップを図ることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回人事考課を行い、意欲的に仕事が出来る様に働き掛けを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設施設の内部研修の参加、また、レポート作成を行う事で、職員1人1人のスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、事業者同士で相談・報告をする事により、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な部分、困っている部分を確認しながら本人が安心できるようなケアプランを作成し、ケアの提供を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話を傾聴し、困っている事や悩んでいる事に耳を傾け、その課題を解決できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で話し合いを行い、今困っている事は何かを把握し、そのために必要な支援が提供出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係はもちろんの事、思いやりの心を持ち、お互いに楽しく生活を送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	困っている事や、悩んでいる事があつたら気軽に相談できる関係を築き、共にご利用者様を支える様な働き掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の方のみの面会だけではなく、ご家族を通じて知人の方の面会もある。また、バックグラウンド(生活歴)を把握し、本人にとって馴染みのある話題を提供している。	長喜城に生家がある方は長喜城神社に散歩に行っている。年賀状を家族に出したり、携帯電話のメールで家族と連絡している。お墓参り・法事・孫の成人式など家族や社会との関係継続に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の仲が上手くいこう、話題に困った場合には、職員が話題を提供したり、1人ではコミュニケーションが図れない方などには、職員が仲介したりしていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、面会に行ったり、ご家族にも何か困っている事などがあつたら相談して頂く様に働き掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いに対応出来る様に、ご本人の話を傾聴した。自分から訴える事が困難な利用者様については担当職員を中心として、何を要望しているのか、職員間で話し合いをする事が出来た。	知り合いの美容師によるカット・ヘアダイの希望を受け、出張美容院を実施している。意向や希望は、一対一のケアでゆっくり話を聞いている。表現が困難な方へは表情や態度、ケア記録などから汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの、馴染みの生活が途切れない様にご家族に話を聞いたり、本人の話を傾聴するなどした。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の身体状況の把握を行い、利用者様1人1人に合った生活リズムで毎日が送れるように支援してきた。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議で、担当職員を中心に意見を聞き、情報を集めながら、現状に即したケアプラン作成をしている。	職員間で情報を共有、検討してカンファレンス会議を開き、モニタリングを行い家族に説明をしている。長・短期目標をたて評価を行っている。計画時には老健施設の作業療法士の意見も参考に、QOLが向上するよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りの際に情報を共有しケアプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者1人1人のニーズに合わせ、福祉用具のレンタルや訪問リハビリ等、柔軟な支援が提供出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や広報誌をチェックしながら、地域のイベント等に参加し、楽しんで生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご家族と話し合いを行い、ご本人、ご家族が希望する医療機関を受診して頂くように支援している。	入所時に家族と話し合い、かかりつけ医の希望を聞いている。職員はバイタルチェックを行い、協力医は半年に一回定期健診に来ている。かかりつけ医受診は、家族付き添いが基本で、ホームでの健康状態の情報を提供し、受診報告受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師は居らず、併設施設(老健)のDrに助言を頂いていた。また、急変時は、係りつけ医で対応をしていた。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、サマリーや口頭で情報交換を行っている。また、退院が決まってからは、実態調査を行う事で、利用者様の入院中の状態を把握し、施設に再入所してからも適切な介護を受けられるように環境を整えていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の時点で、今後の方向性の確認をしていた。グループホームでの生活が難しくなった場合についてのご家族の考えを聞き、それに応じて支援していくようにしていた。	ホームの重度化した場合のあり方を入所時に家族に説明をしている。基本的に利用者が食事ができなくなったとき、医療機関と家族と相談をして対応を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応が出来る様に、消防で実施している救命救急の研修を受けるようにした。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、避難訓練を行い避難誘導方法を身につけている。また、その都度反省会を行い、より安全に避難出来る様に務めていた。	災害マニュアルを備え、毎月避難訓練を行っている。夜間想定訓練の時には消防署からのアドバイスがあった。訓練を毎月行うことで体が覚え、すぐに対応できるようになっている。備蓄は一覧表を見やすい所に張って管理している。消火器・スプリンクラー・火災報知器を設置し点検も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に「ありがとうございます。」と感謝の気持ちを伝えていた。1対1の関わりの中でも、利用者様に助けられているという気持ちを伝えながら接している。	一人ひとりのプライバシーに配慮し、名前は本人の希望で呼んでいる。その人の尊厳を尊重し、前向きになれるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をしたいか、どうしたいか、等とまずは利用者様の思いが表現出来る様な声掛け、対応を行い、それに合わせた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調が優れない日は、ゆっくりと休んで頂き、調子が良い時はその時にあった活動に参加して頂く支援を行っている。」		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に応じて、利用者様と会話を行いながら、その日に着る洋服を選んでいる。整容や髪形も、その方の好みを尊重し対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を説明しながら、利用者様それぞれの能力にあった、お手伝いをして頂きながら調理を行っている。味付けや、盛り付けも利用者様にお話し、楽しい食事時間になる様に支援している。	利用者と話し合って希望を取り入れ、法人の栄養士がメニューを決めている。準備・調理・片付けなど職員と一緒に、食事と一緒に楽しく食べている。業務日誌に日々の食事を記入し、ケアに活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	なかなか食が進まない利用者様には、栄養補助食品を利用したり、好みの食品を利用したりして、臨機応変に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。利用者様の口腔内の状態や、能力に応じて、見守り、一部介助などを行っている。また、訪問歯科での受診も行って、歯科衛生士からの助言を活かし、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前や、就寝前など、定期的にトイレ誘導の声掛けを行っている事で、失敗される回数の軽減に努めている。また、排泄の間隔を把握する事で、1人1人にあった排泄の声掛けが出来る様にしている。	排泄記録を確認し自立支援に努めている。誘導時間を記入し、次の誘導に気を付けて支援している。夜間は2時間置きに様子を見ている。リハパンから布パンに変わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く飲んで頂いたり、適度な運動をする事で便秘予防に努めている。便秘症状が酷い方には、主治医と相談し、下剤なども使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の体調や気分により入浴を楽しんで頂いている。男性職員に対し、羞恥心のある方は同性介助で入浴をされている。	入浴は週に2～3回が基本であるが、希望すれば毎日でも入れる。湯温なども好みを聞いて支援している。同性介助の方もいる。入浴拒否の方は時間をおいて声掛けをしたり、職員を変えるなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間が過ぎても、なかなか眠れない利用者様に対しては、暖かい飲み物や、ゆっくりと話を傾聴する等し、安心して入眠して頂ける様な支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書はすぐに確認できる場所に保管しており、職員がすぐに確認出来る様にしている。内服薬の追加等、変更があった場合には連絡帳に記載し職員間で情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や好きな事を把握し、その方が楽しんで活動出来るように準備をしている。また、天気の良い時には、外に出て散歩を行い気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒にゴミを捨てたり、近くの神社まで散歩に行ったりしている。また、月の行事では、ご家族も参加して頂き外出行事を楽しんだ。	担当者がその日その日に外出の予定を決めて行っている。通所事業所の車を借りて青葉城などに出掛けている。また近隣の公園や長喜城神社に散歩に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一定額を施設で管理しお預かりしている。外出の時に支払する時がある時は、ご本人に必要額を手渡し、自分で支払いをして頂くように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状、暑中見舞い等で近況をお知らせしている。また、希望される利用者様がいる時は、自由に電話を使用出来る様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部は常に掃除を行い、清潔を心がけている。また、廊下や食堂フロアには季節感を感じる、折り紙や歌などを装飾し、心地よい空間作りを行っている。	ユニット毎のリビングは、明るく、温かな雰囲気である。合唱できるよう壁には大きな紙に歌詞を書いて貼ってある。季節の飾り物(クリスマスの飾り付け)などで季節感が感じられるように工夫している。各ユニットの間にある中庭が癒しの空間になっている。温・湿度調整を行い快適な環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂フロアでは、テーブルが分かれているので気の合った利用者様同士で、読書をしたり、会話を楽しんだりして過ごされている。また、和室も自由に利用出来る様に開放的になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実際に、家で使用していた物を持って頂き、少しでも自宅にいた時と近い状況で過ごして頂くようにしている。	居室は洋間と和室があり、洗面台・物入れが付いている。和室にベットの持ち込みも可能で本人の住みやすい環境になっている。筆筒、誕生会などの写真、家族の写真、ミニ運動会のメダルなどを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱しないように、名前を付けたり、職員と共に作業をしながら個々の能力の維持が発揮できるように支援している。		